

7/25
2017

精鋭「工作班」漁師町へ

と原発 関電 マネー 立地

能登半島の最北端、石川県珠洲市。100世帯に満たない小さな漁師町で、かつて関西電力などが原発立



珠洲原発の計画予定地だった石川県珠洲市高屋地区。2月11日、同市、本社へリから、小杉豊和撮影

地を計画した。「計画推進のため、工作活動を展開した」。朝日新聞の取材に対し、複数の関電の元社員がそう証言した。

市が原子力施設の適否調査を国に要望したのは1975年のことだ。その1年後、関西、中部、北陸の電力3社が原発の共同開発の構想を打ち出し、関電は、日本海に面した高屋地区に照準を定めた。

「もう自力で過疎から抜け出すのは無理だった。どこの企業も来てくれない。そんな所に電力会社が手を挙げてくれた。すがる思いだった」と元市議の男性(82)は振り返る。

過疎脱却につながると、



市は住民向けに学習会を開き、各地の原発を回る見学ツアーを組んだ。「現地に行ってみて、漁師なら養殖、農家ならハウス栽培。原発ができる、地元でカネが落ちてきて、食うていけると分かった」。参加した60代の元区長は計画を支持した。

平成が幕を開け、日本中がバブル経済にわいた89年。関電は高屋地区で建設に向けた地盤調査に踏み切る。その3年前、旧ソ連のチェルノブイリ原発事故が起き、国内でも原発不信が高まっていた。原発が本来に来る――。反対運動は激しさを増し、市民を二分する対立に発展した。焦りを募らせた関電側は現地に置いた「石川班」と呼ばれるチームに精鋭を投入した。「工作活動」が本格化した。(白木琢歩、室英樹)

22面に続く

潜って近づき落とす「潜水艦と同じや」

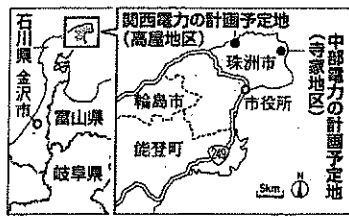
原発と 関電 マヌ 立地

1面から続く

石川県珠洲市高屋地区に進められた珠洲原発の立地計画で、関西電力は前線部隊「石川班」に精鋭を集めた。1989年5月に現地で地盤調査を始めたが、反対派住民らの抗議で中断が求められていた。90年代に送り込まれた関電の元課長(76)が当時の様子を証言した。

元課長によると「石川班」は金沢、珠洲両市に拠点を置いた。さらに珠洲の立地事務所には用地取得の「陸班」(機務対策の「海班」、広報宣伝の「PA」(パブリック・アカウンタンス))住民合意「班」、議会対応の「議会班」があった。

和歌山で当時進められた原発計画や京阪神の用地取得に携わった40、50代の社員らが選ばれた。元課長は「陸班」を担当するようになった。高校卒業後、検針業務を経て、送電線や変電所の用地取得を担当し「用地班」を務めてきた経歴が買われたという。



珠洲原発計画
旧通商産業省が原発の立地などから、電力会社に営業区域を拡大した共同開発を促し、第1号として関西、中部、北陸の電力3社が1976年にプロジェクト



珠洲原発の計画予定地の近くに住み、関西電力と闘った塚本真如さん＝8日、石川県珠洲市

現地へは出張扱いとなり、社員らは当時の珠洲市助役や市関係者が経営する旅館など市内3カ所に分宿し、カネを落とした。地元を回る際は怪しまれないように石川ナンバーの車を使った。元課長は6畳一間に身を置き、週末ごとに約7時間かけて大阪の自宅に戻る「出張」を6年間続けた。

雪や雨の日

原発計画は地元同意を得ても、土地がなければ建設できない。巨額のカネがかかる土地の先行取得が成否を左右する。

高屋地区の住民は賛成、反対に分かれていた。地権者の中には周囲の目を気にし、関電への譲渡が公になるのを恐れる人もいた。そんな地権者には、土地を借り上げた。所有権が移転しなければ登記簿には載らない。

「反対派だっし」をうかがわれながらも、土地は買わずに借りた。相場より、うんと高い地代だ。地権者と賃貸借契約を結び、建設が決まった際にすべて買取できるように、5年以内に契約を更新していった。元課長によると、事務所

チームを編成。関電は高屋、中部電は寺家(じの)の珠洲市内2地区で建設を始めた。国は83年に「反対派重要電源立地指定」だが、電力需要の伸び悩みや住民の反対運動などから2000年3年に計画が凍結された。

土地借り上げ「うんと高く」■切り崩し「最後はカネ」

関電「工作活動の事実ない」

珠洲原発計画をめぐる活動について、朝日新聞は関西電力広報室に質問し、22日に回答が届いた。

朝日新聞は、関電が土地の先行取得をめざし地権者と賃貸借契約を結んだ経緯など、現地で活動の状況について尋ねたところ、「活動の詳細は業務上支障となるおそれがありますので、

在地主」は金沢市内にあった事務所が主だったという。京都府内に住む元課長(78)が取材に「最大の任務が不在地主の切り崩しだった」と証言した。元課長は関電が和歌山県に進めた原発計画に関わった後、「石川班」に投入された。

当時は86年のチェルノブイリ原発事故が人々の記憶に新しく、火力発電所と違って原発は重大事故が起これば放射性物質が出る。安全を言っても信用しきれない。最後はカネで落とした。

最大の標的が、首都圏にいた大地主の医師だった。元課長は「反対派に悟られないように関電の名前を隠した」と話した。大手セネコンと土地の買収工作を進め、東京の大物ブローカーの力も頼ったという。

後に、この医師が土地を売却しながら譲渡所得を申告しなかったとして所得税・法違反(脱税)の罪に問われ、

関電電力の役員らが福井県高浜町の元助役(故人)から金品を受領していた問題では、電力会社と原発立地のいづれが関係が浮き彫りになった。原発立地をめぐる水面下の活動の実態を2回の連載で描く。

関電電力の役員らが福井県高浜町の元助役(故人)から金品を受領していた問題では、電力会社と原発立地のいづれが関係が浮き彫りになった。原発立地をめぐる水面下の活動の実態を2回の連載で描く。

1975年	石川県珠洲市が原発調査を国に要望
76年	関西、中部、北陸の電力3社が原発構想を発表
79年	米・スリーマイル島原発事故
84年	電力3社が「珠洲電源開発協議会」事務所開設
86年	旧ソ連・チェルノブイリ原発事故
89年	関電が高屋地区で地盤調査に着手
	反対派の住民らが市役所で40日間座り込み



91年	反対派が県議選で初当選し、市議選で4人当選
93年	市長選で推進派の現職が小差で3選
95年	名古屋高級金沢支部が93年の市長選無効の判決
96年	やり直し市長選で推進派の新顔が初当選
2003年	電力3社が原発計画の凍結を市に申し入れ



珠洲原発をめぐる主な経緯